

勝坂遺跡発掘調査
100周年記念

歴史文化
シンポジウム

プラネタリウム de

ぷらっと さがみはら 歴史散歩

縄文・中世・江戸をめぐる360°タイムトラベル!

2026年

10月24日(土)

13:00~16:30

きらぼし銀河プラネタリウム \\\\ HPより要申込 \\\\

(相模原市立博物館)

定員 170名(申込順)

申込期間 10月4日(日)~10月23日(金)



1 勝坂遺跡周辺

台地と谷戸に育まれた縄文のくらし

2 当麻山無量光寺周辺

相模川 清流に集う人と信仰

3 津久井城周辺

なぜ津久井城は「宝が峰」と呼ばれたのか?

4 甲州街道小原宿周辺

甲州街道小原宿って?

参加費
無料

主催: 相模原市教育委員会
(文化財課/相模原市立博物館)
共催: 観光考古学会

〒252-0221 相模原市中央区高根3-1-15
TEL.042-750-8030 FAX.042-750-8061

相模原市立博物館HP

相模原市立博物館

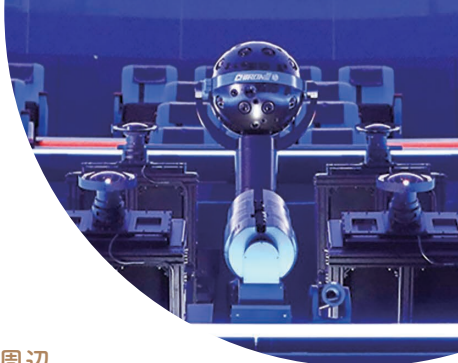
検索

<https://sagamiharacitymuseum.jp/>



最新全天周デジタルで飛び込む相模原の歴史物語

相模原市の特徴的な遺跡や文化財が集まる4つの地域に焦点を当て、その歴史文化の魅力を紹介するシンポジウム。プラネタリウムを会場に、歴史文化と最先端技術を融合した催しです。「プラぷら」と悠久の歴史文化を散歩してみませんか？



1

勝坂遺跡周辺

台地と谷戸に 育まれた縄文の暮らし



発表者：河本 雅人さん(相模原市立博物館学芸員)

100年前、大山柏先生が勝坂遺跡を発掘調査し、のちに勝坂式と呼ばれる土器の発見や原始農耕論を展開。約5千年前の勝坂の地は、縄文集落が密集する縄文一等地として栄えた。その背景にあるのは、相模野台地の地形地質が生み出した豊富な湧水環境と自然を改変した植物質食糧の確保にあった。



2

当麻山無量光寺周辺

相模川 清流に集う人と信仰



発表者：内川 隆志さん(國學院大學教授)

田名向原遺跡で約2万年前の国内最古の建物跡が発見された。古代では田名半在家遺跡から仏具の鏡が出土した。中世には時宗開祖一遍上人が当麻山無量光寺を開山し、信仰の中心的地として門前には宿や関所が設けられた。太古より当麻周辺は行き交う歴史文化のキーポイントとなる地であった。



3

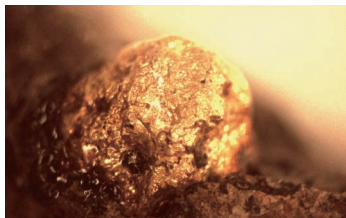
津久井城周辺

なぜ津久井城は 「宝が峰」と呼ばれたのか？



発表者：中川 真人さん(相模原市教育委員会学芸員)

戦国時代、小田原北条氏の支城である津久井城は、甲斐国に対する守りの要として重要な位置にあった。今も随所に山城としての曲輪や土塁など往時の姿を留める。城山は古くから別名「宝が峰」と呼ばれ、城内には宝ヶ池など「宝」の地名が残り、津久井の地域では黄金伝説が語り継がれている。



4

甲州街道小原宿周辺

甲州街道小原宿って？



発表者：原 和之さん(相模原市立博物館歴史専門員)

徳川政権下に五街道が整備された。その一つ、甲州街道は江戸から信州を結ぶ。津久井山間部は、小原宿、与瀬宿、吉野宿、関野宿の相模四か宿を通り、今も小原宿本陣が残る。街道は富士山霊場の信仰などにより多くの人々が通行したほか、信濃・甲斐方面から産出される物資の運搬に利用された。



その他プログラム

・星空解説～縄文人が見た星空～

県内最大級のドームで、10億個の星々を使い、勝坂の縄文人が眺めていた5千年前の星空を再現。現代の星空との違いなどを解説

・勝坂式土器3D投影解説

大日野原遺跡出土の土偶付き縄文土器をはじめ、勝坂式土器の3D画像をドームに投影し、360°から土器を観察してその魅力を解説

・案内者の視点からの講演とパネルディスカッション

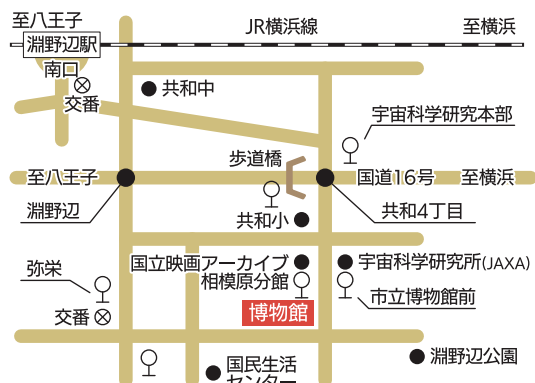
相模原の歴史文化の魅力的な価値を現代の人々と結ぶ視点を学び、意見を交わし、未来へとつなげる

コーディネーター：

田尾 誠敏さん(観光考古学会常務理事／大東文化大学)

コメンテーター：

一寸木 肇さん(大井町教育委員会 おおい自然園専門員)



ACCESS

お車

- 国道16線「共和4丁目」を西へ500m
- 東名高速道路「横浜町田IC」から約11km
- 圏央道「相模原相川IC」から約6km

公共交通機関

- JR横浜線 淵野辺駅から徒歩20分
- バス 青葉循環左回り(淵系統37)「市立博物館」下車すぐ
- バス 青葉循環左回り(淵系統36)「市立博物館」下車すぐ
- JR横浜線 相模原駅南口・小田急線相模大野駅北口から バス 相模原駅南口行き⇄相模大野駅北口行き(相02系統)「宇宙科学研究本部」下車8分